

文献

抄録

知覚—運動訓練が粗大運動能力の向上と自己概念の発達に及ぼす幼児での成績

本論は、粗大運動 (gross-motor) 能力及び自己概念 (self-concept) の向上に及ぼす知覚—運動 (perceptual-motor) 訓練の効果を研究したものである。

対象：幼稚園で Coopersmith's Behavior Rating Form と Mann-Suiter Primary Developmental Motor Ability Checklist で自己概念と粗大運動に障害の認められた、4, 5 歳の実験群, 対象群各 13 名計 26 名である。男 12, 女 14 名。

方法：実験群, 対象群の各々 4~6 名の小グループをクリニックに呼び、実験群には毎日 30 分 10 週間、知覚—運動訓練を行い、対象群には特別の訓練を行なわなかった。

知覚—運動訓練は、Braley や Flincham, Ayres, Frostig, そして Kephart の方法をそれぞれの実験群の子供に合せて、著者が実施した。訓練では特に、①原始姿勢反射の抑制、②Body-Image の向上、③平衡の保持、④運動の協調性の向上、⑤敏捷性、⑥力性、⑦柔軟性の向

上に注意して行った。

結果：10 週間の訓練後、両群に Cratty Six-Category Gross-Motor Test と Goodenough's House, Tree, Person Projective Test を実施した。訓練効果は各テスト成績を、両群間における逐次限定で t 検定を行い比較された。その結果 Cratty's Test ではその 6 つの下位テスト中の 4 つと総合点は実験群で高かったが $p=0.5$ レベルでの有為差は認められなかった。Goodenough's Test では $p=0.5$ レベルで実験群の成績が有為に高かった。

粗大運動能力で訓練効果を有為の差で認めなかった理由を著者は、①従来の研究では 3~6 カ月の訓練後の効果が認められている事から訓練期間が短かく、②患児の訓練出席率が一定でなかった、としている。が一方、現場の多くの専門化の実感する様に粗大運動と知覚—運動との関係は明らかで、それは今回の実験では否定されないと、主張している。

粗大運動能力との関係から考えて、今回の自己概念の成績は明解にし得ないと述べてる。

Wendy S. Platzer: Effect of Perceptual Motor Training on Gross-Motor Skill and Self-Concept of Young Children, A. J. O. T., 30 (7), 423~428, 1976.

老人のデイホスピタルでの OT の役割

本文は老人の為の Day-Hospital で働く OT の仕事についての紹介論文である。

Day-Hospital の目的は老人の社会の中での生活の保持にあり、①維持的サービス、②リハビリサービス、③保護的監視的サービスを行う。

対象は一応 Self-Help の自立した 65 歳以上の老人で、70 名の内約 25 名は週一回の割で、他は週 2~4 回の割で貸切りバスで来院する。

専門職のスタッフとしては、看護婦、ソーシャルワーカー、心理士、OT で、医師は非常勤で患者ごとに月一回の割で診察する。

OT の役割は、①評価、再評価 (6 カ月一回の割の定期評価)、②OT 助手の行う作業の Supervision、③個別あるいは小グループ訓練、④家庭訪問、⑤他スタッフとの会合である。

毎日の患者のスケジュールは、10:30 に始まり 4:30 に終る。即ち、朝の茶会の後の工芸、絵画、昼食後の昼寝、おしゃべり、整髪等その後の 20 分間の体操、そしてレクリエーションやゲーム、お茶会と続く。

新しいクラフト等へは、最初は未経験等から参加を渋ったりするが、OT はクラフトを簡単な形へと直し、その時間を成功的に終らせる事により、老人に新たな技術を身につけさせ、新しい能力に気付かせ再活性させ、活動を増す様にする。

レクリエーションやゲーム、話し合は互いの理解を増し、自信と自己認識を持たせる。

映画は週一回あり、①娯楽、②教育、③議論の材料等のために有効である。

訓練の必要な者は、①より効果的動き方、②機能向上③耐久性の向上を期して、3週間訓練し、4週目の評価をくり返す。

混乱のある者には、台所で実際に多くの道具を持って料理を行なう等の活動が有効であり、支持と勇気づけが OT の患者への接し方の基本といえる。

OT は患者のニーズに気持ちよく答え、患者に能力の実際を知らせ、フラストレーションと失意とを防がねばならない。

Rhoda Aronson: The role of an Occupational Therapist in a Geriatric Day Hospital Letting, AJOT, 30 (5), 289~292, 1976.

(横浜市大病院リハ科、作業療法士 生田宗博)